

B C L 大好きマガジン

BCL は 趣味の 王様



こんなの作ってみた号

2014 秋

ごあいさつ

みなさん、こんにちは。この雑誌は BCL が大好きな仲間が集まり、もっともっと BCL の楽しさを多くの人達に伝えたいという思いで生まれました。今号はデモンストレーション版です。ただいま、来年 8 月の創刊号に向けてライターさんを大募集しています。ずっと続けて来られた BCL 歴数十年のベテラン DXer はもちろん、最近始められた十代のヤング BCL の諸君、そして十年、二十年の休止期間から目覚めた復活組のみなさん、あなたの BCL への思いや情熱を本誌で一緒に語ってみませんか。原稿料は出ませんが、飲み会への永久参加権をプレゼントします。今度とも、ご最良に。

(編集人)



山田先生、こんにちは。

英語放送がわかるまでの道 (まだ途中)

やまだやすじ

中学から BCL を始め、高校ぐらいから日本語放送にあきたらず、英語放送を聞き始めた。

大学以降は、BCLサークルの会報「コールサイン」の DX ニュースのネタを拾うために Radio Netherlands の Media Network を中心に聞いていた。仕事が忙しくなり、ロケーションの悪いところに引っ越し、子供が生まれたこともあり、海外放送を聞くこと自体から 20 年近く離れていた。仕事に少し時間の余裕が出てきて、何かやろうと思いついたのが英語。

BCL をしていたころから、英語放送を聞き取れるようになりたかった。しかし BCL をしていない今、英語放送を聞き取れるというだけじゃつまらないので、目標を BCL と同じような気がする放送通訳にした。まず、会議通訳を養成する通訳学校に通う。通訳学校は、通訳エージェントと関係があることが多く、そこも BBC の放送通訳の仕事を受託しているよう。

通訳学校は当然、英語から日本語だけでなく、その逆、日本語から英語の通訳もやるが、純ジャパ(海外滞在経験がない純ジャパニーズ)の私は発音も悪く、なかなか上級のクラスに上がれない。そうこうしているうちに、NHK の通訳学校を見つける。こちらは、上級レベルに行けば、放送通訳のクラスもあり、仕事にもつながる、という。入学できたのはいいが、通訳学校は、3 回同じレベルをやって、上のレベルに上がれなければ、受講終了、というようなルールを決めているところが多い。NHK もそう。そのため、断続的に 5 年通ったが、プロコースには上がれず、

受講終了。

ここで考えた。仕事をせずに通訳の勉強に専念している人や実際に通訳を職業としている人も多い、クラスメートの女性たちと違い、私にはそれほどの時間はない。日本語から英語はあきらめて、英語から日本語に特化しようと。そうすれば、英語放送を聞けるようになりたいという、当初の目的にも合う。

今は、通訳エージェントがやっている通訳学校で、放送通訳のクラスに通っている。そのクラスの目指すレベルは CNN の英日同時通訳をすることなので、レベル高すぎて、全然ついていけないのだけど、めげずにやっている。

で、ここまでやってどのくらいわかるか？知っているトピックなら、ほぼわかる。まるっきり知らないトピックとか、一般の人のインタビューとかだと、結構つらい。

今の課題。

(1)同時通訳自体に慣れていない。英語の音を耳で聞きながら、自分で日本語訳を口に出すという行為自体にまだなじんでいない。でも、先生は、練習すれば誰でもできるようになる、と言うので練習するしかない。

(2)単語の不足。英文のニュース雑誌を読むと同時に、CNN や BBC を見ながら、知らない単語をつぶしていく。

(3)サウンドバイト(ニュースの中に出てくる一般人へのインタビュー)が聞き取れない。これは、まずアナウンサーの話していることをすべて訳せるようになって、さらに 1 段階上の課題だが、いずれは、取り組むつもり。ドラマとか見ることで、口語表現に慣れるしかないか。

英語放送がわかるようになるという、永遠かもしれない目標に向けて、まだまだ、じたばたしようと思っている。

(山田靖次／関東 DXers サークル・元代表)

4年間のBCLと こ・れ・か・ら

山之内悠樹
(鹿児島県在住高校生)

BCLとの出会い

おそらく私がBCLと出会ったのは2011年。BCLとの出会いを順追って簡単に紹介させて頂く。

①AM(中波)は夜になると韓国や中国などの放送が聞けるようになると知る。(当時ネットに接続できる環境がなく、何よりもまだ幼かった私は、世紀の発見だと思い込んでいた。今考えると恥ずかしい(笑))

②KBS World Radio[1170kHz]を偶然キャッチ(①)を知り、夜はよく中波をワッチしていた。韓国に興味を持っていた私はただ単に情報収集のために毎晩聞いていた。まだBCLや短波といった言葉は聞いたこともなく、知らなかった)

③偶然、古本屋で「再び始めるBCL2008」を見つける(学校でインターネットを使い、その当時、BCLや短波という言葉だけは目にしたことがあったため、“BCL”という文字に目を惹かれて購入。この本からは本当に色々学ばせて頂いた)

④激安中華短波ラジオを購入(③の本に書いているような放送を聴くためには、“短波ラジオ”が必要ということを知り、ER-21T-N ¥2,500を購入。本に書いてある“珍局”という言葉に心惹かれ、これで珍局を狙っていた(笑) お恥ずかしい… このラジオにはお世話になり2年ほど使用した。主に日本語放送を聴く)

BCLの楽しみ

高校生になり、携帯が手に入りネットに自由に接続できる環境になった私は様々なBCLの分野があることを知る。また、激安中華ラジオを壊してしまった私は“SONY ICF-SW7600GR”を購入することができ、またBCLの楽しみが増えた。BCLの楽しみと体験談を分野別に簡単に紹介させて頂く。

楽しみ その1 MWDX

ネットでMWDXについて調べていると、北米、東南アジア、中東、欧州、オセアニアなどの中波が聞けることを知り、今まで韓国、中国などの近隣国局しか聞いたことのなかった私は驚く！だが、高性能RX・ANTがないと聞けないと思っていた私は、あきらめてしまった。しかし、ある日、801kHzで強力な英語局を受信！KTWGとアナウンスしている。私にとって初のグアム中波をキャッチできた瞬間であった(KTWGと聞いてパッと来なかった為しらべましたが(笑))。常連局なのかも知れないが、私にとっては感動ものであった。それからは諦めずにワッチし始めた。その後、558kHzのDZXL(フィリピン)、1700kHz ESPN、1656kHz 2MM(オーストラリア)、729kHz RRI-Nabire(インドネシア)など常連局ではあるかも知れないが、受信することができ、MWDXの楽しさを知った。最初から諦めるのではなく、ワッチすることが大切だと思った。特に、時間帯を考えて受信しなければならないということを痛感した。まだまだ目標局・国はたくさんあるので、今後も目標を持って、自分なりに楽しんで行きたいと思う。



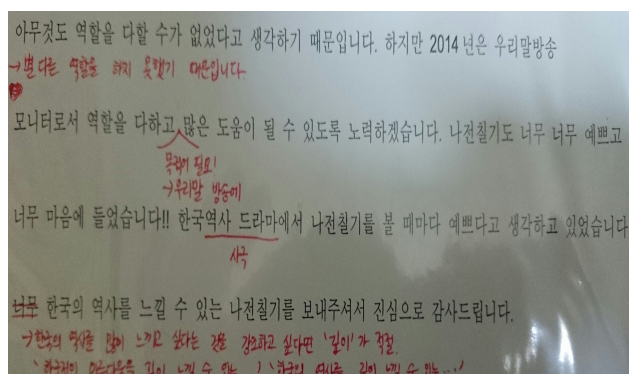
楽しみ その2 FMDX

FMDXといえば“Eスポ”が思い浮かぶが、私がFMDXに興味を持ったのも、Eスポを体験することが出来たからだ。私の中でEスポは「稀にしか起きない異常伝搬」だという先入観を持っていた。しかし、ある日77.1MHzで宮城県のDate FMを受信することができた。まさか宮城のFMを聞けるとは想像もつかなかった私にとっては驚き、嬉しかったのを今でも覚えている。それからは、FMDXにも興味を持ち、色々と情報を集めていった。そんなある日、89.3MHzで強力に入感している局があった。最初、局名は分からなかったが、笑い方が特徴的だったため、どこの国かはすぐに分かった。フィリピンである。当地にはフィリピンの方が多く住んでいるらしい、以前から笑い方が特徴的だと思っていた。そのため、国も簡単に絞ることができ、リスト等を参考にして、Campus Radio Tuguegarao”だということが分かった。よく調べてみるとこの局は様々な地域で受信されるFMDXの常連局であるらしい。だが、初のPHL局受信で本当に嬉しかった。今年はAUS局、PHL局を沢山(?)受信する事ができ楽しむことができた。今後も思いがけない局の受信に励んで行きたい。

楽しみ その3 語学

様々な国の言語に触れることができるのもBCLの魅力だ。世界には様々な言語があり、聞いているだけでもおもしろいと感じる。私自身、「韓国語」を勉強しているため特に韓国局を聞いている。BCLによって語学力が向上するかというと、向上すると私は思う。なぜなら、特に受信報告書を書き上げるとき、集中して放送を聞き受信内容を把握し記載しなければならない。また、受信状態や感想を書くにも単語を調べ、文法を学ばなければならないからだ。受信報告書や局へのお便りは語学力が向上するひとつの方法と私は信じている(笑)韓国語関連で言うと、KBS world Radio韓国語班は大変親切で、お願いすると、受信報告書の間違った韓国語を赤ペンで訂正しペリカードと一緒に送って下さる。殆ど赤色でかえてきたことも少なくない(笑)ちなみに、おすすめ韓国局は603kHzの

KBS Happy FMだ。韓国語も今後勉強を続け、放送を完璧に理解できるようになりたい。そして、新たな語学にも挑戦して行きたい。



最後に

自由気ままに・好き勝手書かせて頂きましたが、読みにくい点・失礼な点等、ご容赦下されば幸いです。読んでくださり、ありがとうございます。今後もBCLを楽しんで行きます！

九州 DXers サークル 発足準備のお知らせ。



この度、九州地区のBCLの集まりとして九州DXersサークルを発足させようと思います。九州でBCLを楽しんでいる方、また九州出身のBCLの

みなさん、ぜひご参加ください。みなさんで作って行くサークルです。当方、まだまだ若輩者につき、先輩BCLの皆様のご指導をいただければ幸いです。

連絡先:
E-mail: japanbclradioyuya16@gmail.com

(山之内悠樹／鹿児島県在住高校生)

BCL と HAM を楽しもう。

平馬明秀
(アマチュア無線局 JJ1FZI)

HAM だけではもったいない。

私がアマチュア無線を開局したのが 1988 年、BCL を始めたのは翌年の 1989 年で既に BCL ブームなるものは去っており当然その頃の状況は分からないが、当時は BCL を始めてベリカード集めや DX を経験したのち、自分で電波を出してみたいという興味が沸いてきてハムになる人が多かったと聞いている。ここでアマチュア無線と BCL の両方を楽しむという選択肢がなぜかあまり無かったようだ。もちろんハムの世界にのめり込んでいくのはごく自然な流れではあるが、今思うと、もったいない話である。

アマチュア無線機は邪道？

私が BCL を始めた当時、周波数情報などは「ラジオの製作」などの雑誌や「MY WAVE」などのクラブ報から情報を得ていた。またそれを元にアマチュア無線機のゼネカバ機能で放送を受信することは容易だったが、感度や選択度の面で問題があったり、混信除去機能なども中途半端だったことはやはり否めなかった。そんなことから「アマチュア無線機で BCL をやるのは邪道」なんてことも言われたりした。たしか

にそうかもしれないがやはり同じ電波を使った趣味なのだから、お互いの技術やノウハウを皆で共有し、両者をうまく楽しむことはできなかったのだろうか。

インターネットを活用しよう！

あれから 20 年以上が経ち、BCL やアマチュア無線を取り巻く環境はガラッと変わってしまった。BCL の世界では PERSEUS や FDM-S1 などの SDR が登場し、DE1103 や PL-660 などいわゆる中華ラジオが主流になっている。またアマチュア無線の世界では HF 機が小型化され、ゼネカバ機能は高級受信機と変わらない性能を持つようになった。そしていまや、インターネットで欲しい情報は簡単に手に入る時代。アマチュア無線関係のページや書籍にも BCL に使えるようなハードやソフトの記事がたくさん掲載されている。さらに facebook や twitter、mixi などの SNS で簡単に情報交換することも出来るようになった。私はこれらをうまく利用して、今でも BCL とアマチュア無線を 25 年以上継続してやっている。

垣根を越えた交流の充実を。

もちろん私と同様、BCL とアマチュア無線を平行してやっている人は多いと思うが、そういった方々による BCL と HAM の垣根を越えた情報交換や交流の場をもっと充実したいと思っている。しばらく BCL やアマチュア無線から遠ざかっていた人が近年復活したという話を最近よく耳にするようになった。仲間が増えるのは非常に喜ばしいことである。是非ともこの両方の利点を生かして今後とも末永く楽しんでほしい。



アマチュア無線も 20 年ぶりに再開局するぞ!!!

BCL を 20 年ぶりに再開して、ラジオでアマチュア無線の 7MHz バンドを聴いていたら、「CQ、CQ」の声がどうにも懐かしくなってしまう、昔のコールサインで再開局することにしました。もし交信のチャンスがございましたら、よろしくお願いします。

JM1TGE 関山レイ(群馬県在住 48 歳)

レガシ受信機と遊ぶ。

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

ヤフオクで中古ラジオを買った。JRC の NRD-505 だ。40 年ほど前のモデルだが、外観の汚れやキズは主観的に許せる範囲である。電源も入るし、ライトも付いて音も鳴る。まあ、そのくらいは当たり前か。アンテナを繋いで受信してみたら、短波放送が問題なく聞こえた。一応は動作品として合格のようだ。

ただ、気になる点が一つあって、受信モードを AM-Narrow や USB/LSB に切り替えると極端に信号強度が落ちるのである。まるでアッテナを入れたかのような感度低下だ。相当な強力局以外は S メーターが振らなくなる。これは明らかに不具合と言える。AM-Wide だけしか使わないのであればそのままで構わないのだが、それではせっかくの 505 が可愛そうだ。

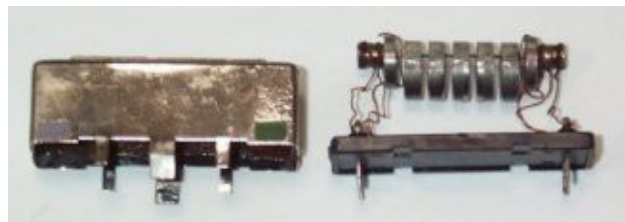
ネットでダウンロードした回路図を見てみると、どうも 455kHz の IF フィルターが怪しいようだ。不具合のあるモードは、国際製のメカニカルフィルター MF-455-10AZ121 というのを使用している。これもネットで調べたところ、メカフィルは経年劣化で内部のスポンジが固着し、性能不良を起こすらしい。



(メンテナンス前)

さらに調べていくと、何人もの主にアマチュア無線家がメカフィルのメンテナンスを実施した記

事を書いている。中には、ぼくの 505 と似たような症状から「S メーターがガンガン振れて」まで改善した人もいる。慎重に作業すればぼくでもできそうなので、真似してみる価値はあると思う。時間を見つけてチャレンジしてみることにする。



(メンテナンス後)

このように古いラジオは何かしら不具合のあることが多く、程度によってはジャンク同然の固体もあるだろう。今思えば、ずいぶんリスクな買い物をしてしまった。ぼくの 505 がかつての性能を取り戻してくれるかどうかはまだ分からないが、まずは直す楽しみを与えてくれそうだ。

そもそも、お恥ずかしい話だが、今回調べてみるまでメカニカルフィルターの構造すら知らなかった。ましてや、このような劣化が起きるなど夢にも思わなかった。40 年の時を超えて、懐かしのラジオに遊ばれている自分に気が付いた。

やはり、NRD-505 は偉大であった。

JRC *Japan Radio Co., Ltd.*
NRD-505
An Historical and Technical Overview



[インタビュー]

BCLを20年ぶりに 再開しました。

40代 RSさん

このところ、40代、50代でのBCLカムバック組が増えているという。仕事や生活に時間的余裕が生まれ、むかし夢中になった趣味への回帰ということなのだろう。RSさんもその一人で、ほぼ20年間BCLから離れられていたが、最近また興味が湧いて来たとのこと。さっそく、お話をうかがってみた。

-----こんにちは。まずは、20年ぶりにBCLを再開されたきっかけをおしえてください。

RS: 8月の暑い日、急に昔の仲間と会ってみたくなったんだよね。気が付いたら20年近く経っていたよ。携帯に残る番号の一つにかけてみたら、普通に出たね、当時の高校生が。いや、もう30代後半なんだってさ。挨拶も早々に、話を切り出してみたんだ。「たまにはハムフェアでも行ってみようと思うんだけど、久しぶりに会えるかな？」って。二つ返事でOKをもらってうれしかったね。でも、もう後には引けないと思ったね(笑)。

-----じゃあ、仲間との再会がBCLの再開に繋がったということですね。ラジオは持っていたんですか？

RS: BCLを休止した後も持っていたラジオがSONYのICF-PR070というの。当時お付き合いのあったOMさんから譲ってもらったもので、まあ、短波放送は聴かないまでも、ローカルのFM局を聴いたりしてた。でも、これ、定番の故障があるらしくて、じきにご臨終となってしまった。あと、もう1台所有してたのがLOWEのHF-150ってヤツ。コンパクトなラジオで、特に海外で評価が高かったらしい。音がいい、とかね。俺的には乾電池で動作するのが有難かった。野外で使えるから。これもヤフオクで売っ

ちゃったけど。今、ラジオと呼べるものはカーナビのAM/FMラジオしかなくてね(笑)。まあ、たまにインターネットで聴けるラジオをパソコンで聴いたりしてたけど、それじゃあ趣味も何もありやしない。そうだ、まずは1台買ってみようと思った。

-----で、ラジオ買ったんですか？

RS: ネットで調べた限りでは、現行機種はポータブルラジオがほとんどで、正直ツマンナイって感じ。とりあえずの使い方としては、晩酌のお供と言うか、酒の肴になるラジオなんだよね。必要ないけどソコソコの実力があるといい。実は以前から、ヤフオクでBCLラジオを探してみることがあったんだわ。最近ではFRG-7000なんてレア物を見つけて本気で入札考えたし、NRD-515とか505にも興味惹かれたんだが、とにかくどれも数十年選手だから、動作が不安でね。自信を持ての「完動品」なんてほぼ無いし。みんなジャンクみたいなもんで、「ライトが付きます」とか「数字が動きます」とかさ。また失礼ながら、そういう人から買うのもなんだかなあ、って気がしてね。いやまあ、だからこそ時々すげえ掘り出し物があったりするかも知れないけど。

-----そうですね、ヤフオクで買うのはそれなりに目利きができないと難しいですよ。

RS: うん、途方に暮れてるうちにまたネットでアメリカ製のPalstar R30Aというラジオを見つけたんだ。ネット販売では残念ながら入荷待ちなんだけど、雰囲気的にはイイ感じだね。値段もそんなに高くない。新品なので動作に不安も無いだろうと思った。でも、製造中止なんだかよくわからないけど現在は入手不可能みたいであきらめたよ。そんな矢先にいいタイミングでヤフオクにPalstar R30Cというのが出品されてね。「C」と付くから後継機かと思ったら一つ前のモデルで(笑)、CはCollinsを意味するらしい。コリンズのフィルターが入ってるんだってさ。それはとにかく、コンパクト



で可愛いし、状態も良さそうだったんで「いまずぐ落札」しちゃったよ。数日後、わくわくしながら灯を入れてみたら、懐かしい音がした。

-----うーん、20年前のテイストを感じさせる言い回しなんですけど（笑）。さて、ラジオも手に入れられて、いよいよ BCL 完全復活ですか。

RS: いや、その後も調子づいてヤフオクにハマっちゃってね。ラジオ聴くより買うのが楽しくて、気が付けば、NRD-505、515、525、545 と JRC のラインナップがウチの四畳半に山積みになってた。あ、まだ 535 が残ってるけどね。あと、気軽に使えそうな TRIO R-1000 を買ってみたり、最後は DRAKE R8B を手に入れた。さすがにもう満足したんだか、飽きたんだかでそれ以降はヤフオク巡回もめっきり減ったなあ。



-----どうも、BCL 復活組のみなさんにとっての大きな落とし穴なんですかね。ヤフオクで昔のラジオを大量買いして後悔する、みたいな。その後はどうしましたか？

RS: ああ、一応ラジオを聴き始めたよ。朝鮮の声とか、昔のまんま元気に放送してるみたいで安心した（笑）。でもまあ、アンテナも 20m ぐらいの電線を庭に張っただけだし、ロケーションだっていい訳じゃない。まあ、田舎なんでノイズレベルは都会に比べて少し低いのかも知れないけど、北米中波とかはまったく聴こえない感じだね。って言うか、それ以前にラジオをじっくり聴く時間が無くてね。会社から帰宅してからの 30 分ぐらい、ビールを飲みながら、って言うのがいつものワッチスタイルだよ。まあ、そのくらいのユルさでちょうどいいんだろうし、結構楽しいもんだよ。もともと、「俺はラジオを聴かない BCL だ!!」なんて言ってたしね。あ、自慢できることでもないか。

-----そうですね、今の時代、そんなこと言ったら炎上モノですよ。気をつけてください。

RS: そうそう、それで思い出した。ブログとかツイッター、フェイスブックも始めたんだよ。別に情報発信する訳じゃなくて、仲間集めみたいな目的でね。BCL の同人誌を作ったり、オフ会したり、そういうの楽しそうじゃない。まあ、昔のミーティングとか会報のノリなんだけど。さっそく、秋葉原でオフ会やったよ。ダメもとでネットで呼びかけてみたら、思いがけず有名な OM さんがフレンドリーに遊びに来てくれてね。うれしかったなあ。BCL を始めたきっかけや山田耕嗣先生の思い出話とか、いろいろ聞かせてもらった。BCL はラジオを聴いてナンボなんだけど、こういう交流も楽しいよね。秋葉原でのオフ会は続けて行きたいと思ってる。あと、ネットで知り合った横浜のサークルの人達に呼ばれて飲み会にも行った。こっちは参加者も大勢で、すごい熱気にあふれていた。今でもこういう集まりがあるんだね。それから、同人誌作りも始めてるよ。「BCL の楽しさをより多くの仲間に伝えたい」って感じかな。昔の仲間に原稿頼んだり、最近ネットで知り合った高校生に書いてもらったり。なんか、ネットを活用すれば、夢はどんどん広がる感じがするね。

-----それは楽しみですね。秋葉原のオフ会も今度ぜひ取材させてください。それでは最後に、これからの抱負を一言お願いします。

RS: そうだね、BCL を通じてもっといろんな人と会ってみたいし、そこでの出会いを大切にしたいと思ってる。今こうして 20 年ぶりに BCL を再開できたのも、昔の仲間の存在があったからだしね。そんな人との出会いの一つの形として同人誌をまとめてみたい、って思いもあるなあ。カッコよく言えば、だけど（笑）。あとラジオの方は、まだ SDR 受信機とか使ったことないし、流行りのループアンテナも未体験なので、興味のあるところだね。もっと早く知ってれば、ヤフオクで散財しなくて済んだのに…。

-----やっぱり後悔してるんですね。ええと、本日はどうもありがとうございました。次回は「20 年ぶりに受信報告書を書いた」をテーマにお願いします。

RS: やだよ。

（上野駅地下食堂街「おかめ」にて収録）

横浜の BCL に会いに行く。

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

横浜市戸塚区というところに、なんだか面白そうな人達がいるらしい。BCL と言って、ラジオを聞いて楽しむ趣味の人達ということだ。なんだ、ぼくもむかし、やっていたことがあるよ。どうやら彼らはサークルを作って、会報も出しているそうだ。おお、ぼくもむかし、そういうの作ってたことあるなあ。

インターネットでその雑誌が公開されてると知って、さっそく読んでみた。びっくりしたのはその頁数の多さだ。プリンターで印刷したら結構な厚みになった。読むのにも時間がかかってしまった。そして、思った。この人達に会ってみたいな、と。

長谷川さんという人がその雑誌の編集をされていた。たぶん、ぼくなんかと同じくらいの歳の人だろう。おそろおそろメールを書いてみたところ、ぼくの名前を知っているという。それどころか、サークルのお仲間を誘ってぼくを囲む会を開こうではないか、との申し出もいただいた。

それはありがたい。二つ返事でその魅力的な提案を受けることにした。そしてなんと驚いたことに、ぼくの昔の仲間の竹野 OM が彼らの顧問をされているとのことで、単身赴任の山形から遠路はるばる参加してくれるという。ご苦労様だ。

場所はもちろん、横浜市戸塚区である。ぼくは一度も行ったことが無いし、何のイメージも湧かない土地だ。ぼくの住む群馬よりはだいぶ都会なのだろう。駅前にビジネスホテルが一軒あるので、そこを予約した。

当日は駅の改札口で待ち合わせ。目印にポータブルラジオを持って来てくれるらしい。おお、BCL っぽくていいな。どきどきしながら待ち合わせ時間に行ってみると、長谷川さんが迎えに来てくれていた。あともう一人、初めて参加される方もいらっしゃって、どうにも賑やかな集まりになりそうな予感がした。

会場となる居酒屋にはすでに何名か集まっていて、最終的には 9 名になるそうだ。所用があつて欠席の予定だった人も急遽駆け付けてくれるという。そういうのうれしいじゃないの。

雰囲気的には、若いころ毎月参加していた BCL ミーティングを思い出させるものがあつた。さすがに今は 40 代、50 代のおじさんばかりではあるが、少し話してみたら、みなさんの BCL への情熱は昔と変わらないということがすぐに判った。もしかすると、それ以上かもしれない。

お酒も進み、生ビールのジョッキがどんどん空いて行く。ヨコハマの粋なおじさん達は群馬から来た不躰な田舎者を快く迎えてくれたようだ。少しほっとした。

ぼくは今、この時代にこんな集まりがあることに驚いた。BCLという趣味の人口もめっきり減っているのだろうし、情報交換や交流の中心はインターネットのはずだ。いわゆるBCLを楽しむ上での活動はネットで十分過ぎると思っていた。

実際にいろんな人のブログやホームページを拝見してみると、人それぞれのスタイルで受信記録や情報の発信がなされている。ブログのコメント欄や掲示板での交流も行われているようだ。

そんな中、横浜市戸塚区の面白い人達は、ご近所さんを集めて顔の見える形での交流を存分に楽しまれているのではないか。そんな世界から20年以上も離れていた自分は、少し、いやかなり羨ましいと思った。

ぼくは名誉会員ということで彼らの末席に置いていただいた。文字通り、名誉なことである。飲み会やペディションへの参加もウェルカムだと言う。

この日、横浜まで会いに来て本当によかったと思う。そして、次にみんなと会える日が楽しみだ。

ありがとう。



(竹野 OM とぼく)

高崎の BCL に会いに行く。

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

第1回の AKB オフ会でお会いした先輩 OM にお聞きして驚いたのだが、ぼくの住む群馬県高崎市に、これまた有名な先輩 OM が引っ越されて来ているとのこと。それも、ほんの半年前に。知らなかった。そして、会いたいと思った。

チャンスは突然にやって来た。そのお方、福永光洋 OM はなんと、横浜市戸塚の BCL サークルのみんなと交流があって、ぼくが彼らと会った記事をネットでご覧になり、フレンドリーなメールをくれたのである。しかも、ウチからわずか 10 キロ程度の場所にお住まいとのこと。さっそく、高崎駅周辺で「高崎ナイトオフ会」を開くことにした。

福永 OM とは今回が初対面である。お名前はずっと以前、そう 30 年ぐらい前から存じ上げているのだが、大御所ゆえ、緊張する。なにかこう真剣勝負に臨む感じなのだ。とは言え、生ビールでカンパイ!!となれば、一気に緊張感も解れ、BCL 談義に花が咲く。愉快的な人であった。



福永 OM は FM DXing をメインに楽しんでいる。ぼくはあまり縁のないジャンルだったので、その辺りの楽しみの秘密を知りたかった。話は BCL との出会いのエピソードから始まった。中学校進学の際に買ってもらった学生服の「おまけ」に付いていた AM ラジオがはじまりなのだと

いう。そして数十年前の 3 月 20 日、そのラジオから聞こえて来た北京放送が生涯忘れられない出来事になったそうだ。まったく、なにがきっかけになるか分からない。

その後は先輩の独壇場だ。アマチュア無線家時代を経て FM DXing へのめり込んでいった福永 OM の情熱あふれるトークに聞き入った。そう、誰もがみんな、大好きなこと、特に趣味の話になると時間を忘れて熱中してしまうものだ。

「俺はこの世界で一番になってやる」

若き日の福永青年はそう決意されたのだそうだ。人あたりは非常にソフトで親しみやすい性格の御仁ではあるが、内に秘めた熱い思いは誰にも負けないものを持っていると感じさせた。だからこそ、この道の第一人者なのであろう。たいへんに勉強になった。

生ビールから焼酎のお湯割りへと移り、ボトルを 1 本空けたところで 1 次会はおしまい。さて、2 次会は、先輩なじみのスナックでカラオケ大会だ。福永 OM も、ぼくも熱唱した。ビリー・ジョエルにテレサ・テン…、いや、じっさいこんな盛り上がりになるなんて想像以上であった。楽しかった。そして、会えてよかった。

「今夜、TDXC-高崎 DXers サークル結成だ」

高崎の夜の街で、ずいぶんと酔いの回った二人の BCL が高らかに宣言した。本家 TDXC さん、ごめんなさい(笑)。また次回、できればさらに新しい仲間を迎えての「高崎ナイトオフ会」が開催できることを楽しみにしよう。

福永 OM、お疲れさまでした。



BCL のブログ、はじめました。

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

20 年ぶりに BCL を再開した。

まずは当然のようにインターネットで BCL 関連のページを検索してみた。そう、ググってみたのである。そして、多くの方々がホームページやブログを開設されていることを知った。

「BCL を始めよう！」といった入門記事、「いま、〇〇局が入感してます」的なリアルタイムに近い DX 受信情報、ラジオやアンテナのレビューなど、それぞれの得意分野で自由な発信が行われている。

それどころではない、珍しい局の受信音なども惜し気もなく公開されていて、自分のパソコンで聞くことができるのだから驚いてしまう。

また、掲示板や日記のコメント欄などでの交流も盛んなようだ。そんなネット上でのお付き合いから始まって、DX ペディションに出かけたり飲み会を開いたり、といったオフラインでの交流に発展する場合も少なくない。

もはや当たり前ではあるのだが、インターネットに接続できれば、誰でも手軽にノウハウや情報の発信、受信ができる。そして、同じ趣味の仲間と気軽に交流が持てる時代なのだというのを、あらためて実感した。

なんとも、わくわくする世界ではないか。

そこで、ぼくもさっそくブログをはじめてみた。タイトルは「BCL は趣味の王様」だ。このフレーズがなぜか BCL を再開してからのお気に入りなのである。子どもの頃は話のスケールが大き

すぎてちょっと恥ずかしい気持ちもあったが、いまは悪い気はしない。

ブログの内容は BCL ファンサイトのリンク集を一番の目的にした。自分で検索していて、誰かこういうのリンク集を作ってくれたら便利なのになあ、と思ったからだ。探してみたのだが、そういうの意外と無いのである。

あとはオフ会の呼びかけを行うなどで、みんながやってる受信記録といった日記的なものはほとんど書いていない。じっさい、あまりラジオを聴いていないのだから仕方がない。うーん、なんだかヘンなブログである。

リンク集を作るためには、未知のサイトをネットの大海原から探し出さなければならない。素敵なページと出会えた時の喜びは、まるで珍局を受信したかのようにうれしい。

ぼくの悪い癖なのだが、また、BCL という趣味の本質からちょっと離れたところに生き甲斐を見出してしまったらしい。困ったものだ。

ブログを開設するのは、そんなに難しくなかった。ぼくは Yahoo! Japan のブログサービスを利用しているが、他にも同様のサービスがあるので、未開設の人はトライされてみてはいかがだろうか。そして、自ら発信することの喜びを体験して、BCL をより積極的に楽しんでほしい。

もしよろしければ、一度訪れてみてください。

マイブログ「BCL は趣味の王様」
http://blogs.yahoo.co.jp/bcl_prince

BCL ファンサイト

リンク集

BCL は趣味の王様・編

[2014/09/25]

鉄 2 号のブログ ダブルフォー

ルト! (鉄 2 号さん) :

<http://ameblo.jp/jegam345dswci/> [2014/09/25]

JA-DXing by Nobuo TAKENO

(竹野伸郎さん) : <http://www.asahi-net.or.jp/~ms8n-tnk/> [2014/09/26]

BCL と自作 2nd season (DXRJG さ

ん) : <http://dxrjg-rig.blogspot.jp/> [2014/09/26]

国際短波放送情報 (Hosoya さん) :

http://blogs.yahoo.co.jp/swl_information
[2014/09/26]

KAGEYAMA HOBBY

HOMEPAGE (影山敦久さん) :

<http://www.kit.hi-ho.ne.jp/akage/> [2014/09/26]

Enjoy! BCL!! Radio Radio!

Radio!! BLOG (NGO さん) :

[2http://ngo.cocolog-nifty.com/enjoy_bcl_radio_radio_rad/]
[2014/09/27]

Atlanta DX Online (AR7030PLUS さ

ん) : <http://atlantadxonlineusa.web.fc2.com/>
[2014/09/27]

Saitama Radioholic Intl. (サラちゃ

ん(^)/さん) :

<http://saitamaradioholicinternational.at.webry.info/> [2014/09/27]

BCL Information Net (管理人 S さ

ん) : <http://www.bcl-info.net/> [2014/09/28]

KAYS (KAYS さん) :

<http://kays1998.web.fc2.com/index.htm>
[2014/09/28]

BCL と写真が好きなおじさんの

日記 (西口隆司さん) :

<http://bclphoto.blog22.fc2.com/> [2014/09/22]

BCL 高校生 (BCL 高校生さん) :

<http://blogs.yahoo.co.jp/bclboyjp> [2014/09/22]

BCL 再入門 (Shin さん) :

<http://bclguide.exblog.jp/> [2014/09/23]

海外短波放送 音声ファイル (kei

@Niigata さん) :

<http://shortwaverecording.blog.so-net.ne.jp/>
[2014/09/23]

47 才の春だから (ukidd さん) :

<http://blogs.yahoo.co.jp/lordbritisheighthwonder>
[2014/09/23]

pup のブログ (pup さん) :

<http://pup.doorblog.jp/> [2014/09/25]

DSP ラジオ (Leo Goto さん) :

http://travelx.org/DSP_Radio/DSP_Radio.html
[2014/09/25]

MY BCL LIFE (Naka さん) :

<http://home.u01.itscom.net/hiroo-n/>

BCL 大好きオヤジ (BCL 大好きオヤジさん) : <http://blogs.yahoo.co.jp/yukahiro1991> [2014/09/28]

岩沙さんのお家 (岩沙さん) : http://www.geocities.jp/ka_iwasa/ [2014/09/29]

JH1EAF のブログ (JH1EAF さん) : <http://jh1eaf.cocolog-nifty.com/blog/> [2014/09/29]

BCL 日記 (エムエムさん) : <http://blogs.yahoo.co.jp/gakuji7n4njin> [2014/09/29]

ありがとう、BCL の神様・山田

耕嗣さん (追悼サイト) : http://sky.geocities.jp/yamada_god_of_bcl/ [2014/09/29]

受信機博物館 (ラジオ収集太郎さん) : <http://www17.plala.or.jp/receiver/> [2014/09/30]

BCL ワールドタヌタヌ (狸王さん) : <http://tanukioh.cocolog-nifty.com/blog/> [2014/09/30]

BCL 書籍のホームページ : <http://ar7030.web.fc2.com/> [2014/10/02]

BCL Dial (Dialkid さん) : <http://members.jcom.home.ne.jp/dialkid/> [2014/10/05]

WEST TOKYO TV-FM DX (こんすさん) : <http://konsu.sakura.ne.jp/> [2014/10/05]

Radio World (Waki さん) : <http://blog.zaq.ne.jp/radioworld/> [2014/10/06]

kerokeronyororo の

blog (kerokeronyororo さん) : <http://blog.livedoor.jp/kerokeronyororo/> [2014/10/08]

BCL RADIO NET (JM1DTF さん) : <http://www.bcl-radio.net/> [2014/10/15]

灯台放送ファン (toshi さん) : <http://www.toudairadio.net/> [2014/10/16]

古き良き BCL の時代 (フランク翔太さん) : <http://blog.livedoor.jp/eichan21-bcl/> [2014/10/16]

遊人の部屋 (遊人さん) : <http://blog.livedoor.jp/ha93/> [2014/10/17]

復刻版 DX with ALA1530 : <http://ala1530.web.fc2.com/> [2014/10/17]

電撃麻雀遊戯 (nonchan SOFT さん) : <http://homepage3.nifty.com/nonchansoft/> [2014/10/20]

独り言 (アグルさん) : <http://blog.goo.ne.jp/aguljapan00> [2014/10/20]

やっと聞こえたぞ!!! 中年おやじ

でも (show さん) : <http://bcl2isid2over60.cocolog-nifty.com/blog/> [2014/10/20]

提督の BCL 日記 (zq2000 さん) : <http://dx.doorblog.jp/> [2014/10/23]

ブログ「BCL は趣味の王様」でリンクさせていた
だっているファンサイトをご紹介しました。日付
は掲載年月日です。サイト運営者の皆さま、ご
協力ありがとうございました。

みなさんからの便り

ラジオなしの BCL

山田靖次さん

短波ラジオは聞いていないのですが、今はラジオがなくても、BCLもどきはできちゃうんだよね。ちょっとだけ紹介します。

(1) CATV やスカパーの専門チャンネル CNNj、CNN/US(米)、BBC ワールドニュース(英)はニュース中心。KBS World(韓国)、CCTV 大富(中国)、TV5MONDE(仏)は総合編成。ニュースもドラマもやっている。放送時間の一部で外国の番組が見られるのは日経 CNBC。日本時間夜のアメリカ市場の市況番組が中心。おすすめの番組は BBC の「Reporters」(日曜 16:10 ほか)。世界各地の特派員から寄せられたレポートを紹介する番組。

(2) NHK の BS1

これは、コールサインでもコーナーを作って取り上げていたな。朝 7 時の「キャッチ世界の視点」、夜 22 時の「国際報道 2014」は世界各局のニュースを編集するので、世界のトップニュースがわかる。そのほか、各局のニュースをそのまま流す「ワールドニュース」は原語と日本語の 2 か国語放送。

(3) スマホで聞く

BBC(英)、VOA(米)には iPhone アプリがある。BBC はリアルタイムで聞けるが、VOA は番組単位でダウンロードして聞く形。BBC はアプリ上の文字によるニュースも充実しているほか、番組単位の Podcast 配信もある。これ以外に PRI(米)、Bloomberg(米)もアプリで聞ける。TV 局もアプリがあり、ABC(米)はニュース映像も見られる。

このほか、ネット上でリアルタイム放送してい

る局は Radio Australia をはじめ多数ある。それらの局は、スマホがなくてもパソコンで聞ける。おすすめの番組は、VOA で 11 月 3 日から始まった朝の新番組「VOA Global」。通勤途中に聞いている。

特に、(3)は国際放送だけでなく各国のローカルラジオ局も含めて、多くの放送局(万単位の数)が聞けるので、どんな放送局が面白いのかという情報がほしい。スマホで世界のラジオを聞けるアプリがあるが、自分で探すには局数が多すぎる。

[インターネットで世界の放送を聴くというのも、BCL の楽しみ方の一つなんですね。外出先でもスマホで番組を楽しめるなんて素晴らしいと思います。(編集人)]

BCL に迷惑してます。

関山アスカさん

うちのお父さんがオークションで古い無線機みたいのたくさん買って、困ってます。昔、BCL って趣味をやっていて、また始めるんだそうです。雑音だらけのラジオ聞いてうるさいし、はんだ付けとか臭いんですけど。やめて欲しい。おまけに、こんなの書かせられました。まじ、やめて欲しい。読者第 1 号とか、わけわかんないし。

[どこのご家庭でも同じようなものでしょうか。(編集人)]

執筆を終えて。

山之内悠樹さん

正直、最初は書けるか心配でしたが、悪戦苦闘しながらも何とか書けたので良かったです！良い経験になりました。ありがとうございます！同年代の BCL なんて日本に何人いるんでしょうかね。近ければ交流もできそうですが、中々です(笑)。

[この度は急な執筆依頼に快く応じてくれて、ありがとうございます。同年代の BCL はまだまだいると思いますよ。楽しい仲間の輪が広がりますよう、願ってます。(編集人)]

5₃ の謎

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

勘のいい人はもうお解かりだろう。では、ぼくが BCL を始める何年か前の話をしよう。

小学 4、5 年生の頃だろうか、近所のプラモデル屋さんの店頭で 6 石スーパーラジオというのが並んでいた。まあ、普通の AM ラジオのことなんだけど、当時の小学生にとっては今で言うハイテク機器的な匂いを感じさせた。ぼくはすぐに興味を持った。値段までは憶えていないが、小遣いの何か月分かで、簡単に買える物ではなかったはずだ。当然、親に買ってもらった。

スイッチを入れて選局ダイヤルの数字に合わせてみた。なにも聞こえない。なんだ、不良品じゃないか。と、すぐにプラモデル屋さんに行って。「あのう、なにも聞こえないんだけど」って。プラモデル屋さんのおばさんはラジオを手にとると、選局ダイヤルをゆっくり、注意深く回して行った。突然、音がした。なにか聞こえて来た。「これ、壊れてないよ」と付き返された。そう、TV のチャンネル感覚で数字に合わせてただじゃダメだったのだ。

ふーん、そうか、ラジオってなんか面倒臭いな。それにしても、この一番端っこの

「5₃」ってなんだ？ なんで 3 の字が小さいんだ？ ぼくの興味はラジオを聴くことよりも、そっちに行ってしまった。詳しくは憶えていないが、その次は 6 で、8、10、12、16 と続いていたような気がする。その謎はまったく解けないまま、あっけなくラジオから興味が薄れていった。(おしまい)

ブログ読みました。

rimacaminando さん

ブログ「BCL は趣味の王様」の記事、とても面白く読ませていただきました。1974 年から 1 年半、ちょうどブーム到来の予兆があった頃、激しく集中的にはまり、その後すっかり忘れていましたが、突如、また復活しました。初心者マークをつけながらベテラン OM 諸氏の情報を頼りに、ダイヤルを廻しております。現在はパソコン受信が主流のようですが、わたくしはヴィンテージ受信機での聴取に痺れております。今後とも興味深い情報を楽しみにしております。

[いま流行りの SDR の受信性能や効率の良さには目を見張るものがありますが、むかしのアナログラジオでゆったり楽しむ BCL も素敵だと思います。(編集人)]

忘れ物。

関山礼一郎(編集人)

編集も終盤に差ししかかって、忘れ物に気が付きました。そうだ、「お便りコーナー」が無いじゃないの、ってわけで大あわてで作りました。やっぱり、こういう雑誌には絶対必要だと思うんですよ。山田さんに埋め草もらってたんで使わせていただき、あと、いろいろ総動員してなんとか形になりました。ああ、よかった。来年 8 月の創刊号でもこのコーナーを充実させたいと思っていますので、近況でも、ご感想でも、ご意見ご要望でも、お気軽にお寄せください。お便りのあて先はこちら。E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp BCL 大好きマガジン「BCL は趣味の王様」は、読者のみなさんと一緒に作りたいと思っています。えーと、もう忘れ物ないよね？ ではまた。

BCL の会報を作る楽しみ。

関山レイ(群馬県在住 48 歳)

ぼくの BCL の楽しみ方は会報を作ることだろうと思う。カミングアウトというわけでもないが、ラジオを熱心に聴くことを中心とした活動は、早々と 20 歳ぐらいの頃に止めてしまっているのだ。なぜって、それは、もっと面白い世界があることに気が付いたからだ。この機会にご紹介したいと思う。

20 年ぶりに BCL を再開して、フェイスブックやブログ、ツイッターで出会ったネットの中の BCL に声をかけてみたところ、面白い反応があった。

「もしかして、あの伝説の編集長ですか？(笑)」

べつに伝説と言われるほどではないと思うが、一応、むかしサークルの会報を作っていたよ。ああ、あの頃の会員さんだね、ぼくも憶えているよ。懐かしいね。とまあ、そんなやりとりがあった。

他にも似たようなメールをくれた方が何人かいらっしゃった。ラジオを聴くことより、会報を作ることに一生懸命だったぼくを、20 年以上経った今でも憶えてくれていることに驚いてしまったし、がんばって作って来た甲斐があるなあ、と思った。そして、また会報を作りたいな、という思いが高まったのだ。

そして今、この BCL 大好きマガジンを作り始めた。昔の仲間にも協力をお願いし、ネットで出会った新しい仲間にも寄稿を依頼してみた。みんな苦労して書いてくれたみたいだ。お仕事で普段から文章を書き慣れている人はともかく、普通はなかなか書けなくて当然だと思う。まるで小学生の作文の時間、原稿用紙を前に途方にくれたあの嫌な感覚を思い出すかも知れな

い。ぼくだって、昔は一行書いてはため息を付いていたもんだ。

今だから、と言うわけでもないし、知っている人は知っているので書いてみるが、ぼくの会報作りのお手本は「本の雑誌」であり、その雑誌を作っている作家の椎名誠が目標というか、あこがれの編集長なのだ。20 代の頃、シーナマコトにはまって著書もぜんぶ読んだ。初めて本屋で手にしたのは「インドでわしも考えた」だったが、それは当時 BCL でインドとか南アジアの放送に興味があったからだ。不思議な縁である。

さらに縁といえば、椎名誠は幼少から学生時代まで千葉の幕張に住んでいた。エッセイの中にも度々出て来るのだが、そこから自転車で 30 分ぐらいの、隣の隣の隣街ぐらいに住んでいたぼくは、とんでもない親近感を覚えた。また、時代はずいぶん離れているとは言え、小学生時代に同じ花見川という小川で遊んだりもしているのだ。椎名誠、そして「本の雑誌」に傾倒するには十分な理由と言えた。

BCL からはずいぶん脱線してしまったが、ぼくの会報作りのバックボーンにはこういったことがあった。そして、BCL サークルとの出会い、会報との出会いがあり、当時の編集者さんとのご縁に恵まれ、ぼくの「本の雑誌」が始まった。そして後に「伝説の編集長」が生まれたんだと思う。

会報を作って何が楽しいかと聞かれれば、それは人と人をつなぐ架け橋的な役割りの面白さなんだろうと思う。会報を通じて生まれたご縁もたくさんあっただろうし、そこから生涯の友を見つけられた人もいるかも知れない。そしてまた、BCL という趣味そのものに愛着を持っていただけの方が少しでもいらっしゃったのであれば、大変にうれしく思う。そう、これからもそんな誌面作りに励んで行きたいと考えている。

ちなみに、この文章は 1 時間ほどで書き上げてしまった。大好きなことを書くときは、勢いで書いてしまうものだ。もう、ワーツという感じで。この BCL 大好きマガジンでは、そんなぼく以上に情熱あふれるライターさん、そして編集者さんを大募集しています。さあ、一緒に作りましょう。



アカウント: @BCL_Prince

20年ぶりに再開したBCLの話題を独自の視点でつぶやいてます。フォローよろしく。(関山レイ)

群馬馬四万温泉なう。昨夜は12時までいろんな局を聴いた。地酒水芭蕉を飲みながら。山間の鉄筋ホテルのベランダに張ったアンテナが頑張ってくれたよ。中波はNHKすら微かな電波しか届いていなかったが。R30Cの乾電池駆動は4時間ぐらいのもんだっただけど、贅沢は言えないな。温泉は超気持ちいい。

2015春予定の伊豆今井浜ペディションは、弟子がマイクロバスを運転できる免許を持っているので、レンタカー借りてツアー組もうか、ぐらいのノリになっているんだよね。俺は、すぐ目の前が海のロケーションでバーベキューでビールを飲みたいだけなのだが。ラジオの方も結構楽しめるんじゃないかな。

まあ、昨日の今日でアレなんだけど、

マイシャックがちと豪華になった。
NRD-515が仲間入りした訳だが。やっぱ、重厚な造りは「BCLやってる感」を盛り上げてくれるよな。音もNRD-525辺りのシャーシャー感が無くて、落ち着く感じだ。

まあ、なんだ、ラジオは買ったけど、アンテナがショボイ、と言うことが気になり始めた。とりあえずの仮設10m電線アンテナ(地上高2m)なんだな。とは言え、これ以上にグレードアップできるかと言えば、ちよろつと長くするぐらいのもんだろう。あとはヤフオクで買ったAN-1でも使ってみるか。

いま、SDR以前のラジオをレガシ受信機とか言うのな。俺も、どんどん新しい言葉を覚えて行くよ。まあ、今のところはDXがんばる訳でも無いし、最新の機材は必要ないかなあ、と思ってるんだけどね。晩酌のビール飲みながら聴くだけ。チョイベとかモビって言うのか、それもまた先の楽しみにしよう。

昔はあれだよな、「短波」で華々しくデビューして、そこから全国区のスター街道まっしぐら、なんてコースがあったんだよね。まあ、そんなのひと握りの特別な人に過ぎなかったけど。その後は各

BCLクラブとか地方の寄り合い内での有名人になる、つてのが精々で、まあ、町会議員みたいなもんか。

えーと、だから、2ちゃんに10年ぐらい前にカキコした君には、なんと答えるか。「ミーティングにはいろんな人が集まって来るから、楽しいか楽しくないかは人次第、縁次第だろう。楽しい出会いがあったらラッキー。もし運悪くツマンなかったら、新しく自分で始めてみるのもいんじゃないか?」つてとこか。

新潟の日本海岸にある和島キャンプ場でのBCLペディションに興味があることをつぶやいたことがあるが、その主催者は昔の知り合いであることが分かった。まあ、なんとなくそんな気もしたんだけど、この世界も狭いもんだなあ。毎年秋ぐらいに開催してるみたいなので、来年は参加してみたいよね。

たとえばの話、SDR受信機とかって、ずっと続くのかね。メーカーが製造中止とかになったらどうすんだ? そもそも、そんなに商売になってるんだろうか。俺、そのへんの事情よくわかんねえからアレだけど、もしもに備えて10台ぐらい買っておいた方がいいんじゃないか? もし、無くなっちゃったら困るだろうに。

AKB オフ会へのお誘い。

「BCLは趣味の王様」では、不定期に東京秋葉原でオフ会を開催しています。時代は移り変わっても秋葉原はBCLの聖地です。東京近郊にお住まいのみなさん、遊びに来ませんか。開催日時、場所などの詳細は、ブログにてお知らせします。

Web: http://blogs.yahoo.co.jp/bcl_prince



スイーツを食べながらの集いもあるかも。

高崎ナイトオフ会やろう!!

「BCLは趣味の王様」の編集人は群馬県高崎市に住んでいます。もし、お仕事やプライベートで当地にいらっしゃるご予約の方がおられましたら、ぜひご連絡ください。スケジュールが合うようでしたら、高崎駅周辺でのナイトオフ会を開きたいと思います。ご連絡は次のアドレスまでどうぞ。

E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp



BCL

BCL(ビーシーエル)とは、Broadcasting Listening / Listeners の頭字語である。放送(特に短波による国際放送)を聴取して楽しむ趣味を指す。日本では1970年代に中学生・高校生を中心として一大ブームが起った。

概要

BCLとは、広義では「放送を聴取して楽しむ趣味のこと」を意味している。狭義では「主に短波を使って行われる国外からの放送を受信すること」を意味するが、欧米では「SWL (Shortwave Listening / Listener: 短波無線通信の聴取 / 聴取者)」や、「DXing」などとも称される。日本で「SWL」というと、「主に趣味として、アマチュア無線や業務用の通信局の無線通信を受信して、QSLカード(正しくは受信確認証)を発行してもらう事(または、者)」を意味することがあり、他に「DX (Distant X: Long Distance =遠距離の意: アマチュア無線、BCLにおける遠距離通信の受信)」を指すこともある。

受信者が、受信した放送局名、受信年月日、受信時間と時刻、受信した周波数、受信状態(SINPOコードによることが多い)、受信に使用した受信機やアンテナの状況、受信を確認できる放送番組内容の概略と、その感想などを記述した受信報告書を放送局に送ると、受信したことを証明する受信確認証(ベリカード: Verification Card の日本式省略)が発行されることもあり、それを収集することを趣味とする人も居る。

日本での経緯

アメリカのボイス・オブ・アメリカや、ソビエト連邦のモスクワ放送(のちのロシア連邦のロシアの声)の様に、太平洋戦争中から日本語放送を実施していた放送局もあるが、多くの国々からの日本語放送は戦後開始された。戦中は高性能受信機の所持すら規制されていた(もし発覚

すると、“反体制派として外国の指令を受け、またプロパガンダ情報を大日本帝国国内に流す”スパイ容疑で特別高等警察に連行された。許されたのは、当時外務省情報部の組織であったラヂオプレスのみである)が、戦後、真空管によるスーパーヘテロダイン式のラジオが広く流通し、それはメーカー製とは限らず、放出品などを用いた自作ラジオの売買も盛んであり、オーディオマニア兼ラジオマニアが生まれた。

1970年代の一大ブーム

1970年代になると、主に小・中学生の間で国外の短波放送を聴取することが流行し始め、多くの家電メーカーから短波が受信できるラジオが発売されるようになった。いわゆる「BCLブーム」が社会現象化し、多くの小・中学生が製品カタログに夢中になり、少しでも安くBCLラジオを入手しようと安売り電気店(東京では秋葉原、名古屋では大須、大阪では日本橋など)へ集まった。

1974年1月に放送開始された日本短波放送＝ラジオたんぱ(NSB、のちの日経ラジオ社＝ラジオ NIKKEI)のBCL番組「ハロージーガム」(三菱電機提供)は、もともとの狙いは日本短波放送の聴取者層拡大であったが予想以上の人気を集めた。家電メーカー各社は競って高性能短波ラジオを製造・販売するようになった。ソニーのスカイセンサー ICF-5800・ICF-5900、ナショナルのRF-2200・2600・2800・5000、東芝の



ソニー ICF-5900“スカイセンサー”

RP-2000F といった高性能マルチバンドラジオである。これらの中にはダイヤルからの受信周波数読み取りが可能なものもあり、最終的にはデジタル ディスプレイによって数値直読が可能なところまで高機能化した。特に、ソニーとナショナルは人気を二分し、前者が提供する BCL 番組「BCL ジョッキー」(TBS)と後者が提供する「BCL ワールドタムタム」(日本短波放送、タモリが司会)もよく聴かれた。

BCL ブームが起こるまで、日本には同人誌的なもの(JSWC こと日本短波クラブ、KDXC こと関東 DXers サークル、NDXC こと名古屋 DXers サークルなど)以外に BCL 専門の書籍や雑誌は無かったが、ブームとともに月刊「ラジオの製作」(電波新聞社)が BCL 関係の記事を次第に充実させていった。1975 年 12 月には別冊として『BCL マニュアル』(山田耕嗣編)を刊行、すぐに品切れとなり版を重ねた。以後、BCL ブームに便乗して類書の出版が相次いだ。また、1976 年 1 月には月刊「短波」(日本 BCL 連盟発行、1983 年休刊)が創刊され、多くの購読者を獲得した。日本 BCL 連盟は 1980 年 1 月に『DX 年鑑』を刊行し、本格的なマニアの要望に応えた。さらに、放送局が放送開始前に流すインターバル・シグナル(IS)を収録したレコードやカセットテープも発売された。また、趣味が高じて、自分で電波を出したいという中高生らが、アマチュア無線の資格を取得するなど、アマチュア無線技士の増加にも繋がった。

BCL の醍醐味

欧米における BCL は従来より大人の趣味であるが、1970 年代の日本の BCL ブームの主役は小学生から高校生にかけての若年層だった。特に多彩なデザインのベリカード収集の魅力は若者を惹き付けた。しかし外国語の放送を楽しむだけの語学力がなければ、ベリカード収集後の目標が無くなってしまい、その後ブームが下火になった原因ともなった。東日本大震災後、ラジオの有用性が見直され、2011 年現在の日本では、欧米同様、BCL は大人の趣味と

して(かつての中高生らが成人になり、再び BCL を再開したため)根強い人気を保っている。国際放送各局の番組担当者によれば、日本では 2000 年以降、いわゆる「復活組」と言われる 30～60 歳代の参入により、BCL 人口は再び増えはじめている。

珍局受信への挑戦

BCL の対象となるのは国際放送局ばかりでなく、遠隔地にある国内ローカル放送局、または近隣においても微弱な出力電力で運用されている放送局などが対象となる。夜間にしか受信ができない国内外の中波局も、夏など特定の時期の突発的な異常伝搬(E スポ)でしか受信ができない国内外の FM 局や VHF テレビ局も受信対象となっている。難易度の高い受信を行うためには、高利得のアンテナの使用、受信機の工夫など無線技術の研究が必要であり、加えて電離層などのコンディションを推測するための自然科学系の幅広い知識、わずかなチャンスを見逃さないための根気強さも必要とされる。

BCL はアマチュア無線と同じく、無線通信技術の向上・発展に寄与してきたことを忘れることはできない。すなわち受信報告は無線通信の黎明期より電波伝搬のしくみの解明、また受信技術のみならず送信技術の向上にも寄与し続けてきた。近年でも放送局側の研究として、長年、自局が各地のリスナーから受けた受信報告を集計・分析することにより、自局の中波放送アンテナの理論的特性を実証したものがある。

楽しみの変遷

DX'er(DX 受信を楽しむ BCL のこと)には、無線技術の研究・開発や、根気強く最良のコンディションを待つこと、僻地等にキャンプして、最良となる受信環境をつくり(ペディションと言う)高度な受信をおこなうことなどを、ベリカードの収集よりも優先する人がいる。また、1970 年代から 1980 年代にかけて流行した BCL ブームを懐かしむ 30 歳代から 40 歳代の経済的に余裕が出てきた世代による、懐古趣味的な受信機の収集、あるいは特定の国に対する興味関心により、その国の放送を聴くといった人もおり、幅広い楽しみ方があるのが特徴である。

BCL を楽しむために必要な技術やノウハウの多くは 2013 年現在、本などの出版がほとんど無い(あっても三オブックス発行の専門誌程度)ことから、主に個人の試行錯誤や経験によって獲得されるものが多くなっている。このことは趣味としての BCL に奥行きを与えるファクター(要因)である一方で、初心者が BCL に親しむための障害ともなっている。しかし今日ではそれぞれのサブテーマ毎にインターネット上のブログ等でこれらのノウハウ等が公開・共有化されることにより、従来の BCL 書籍が果たしていた機能が、横に複数のサブテーマ毎に連携し、錯綜する一つのバーチャルコミュニティにより果たされるようになってきているのが特徴的であり、今日の BCL では全国的な単一組織は持たず、複数のリーダー的な人物を中心として広がる仲間が、さらに錯綜して形成する、束縛の無い極めて緩やかで自由闊達な個人の連合体となっている。

日本での 1970 年代の BCL の楽しみ方の主流は、個人によるベリカードの収集であったが、今日の BCL はブログなどを中心に受信記録を交換したり、通信技術やペディションを取りあげる、すなわち趣味を通じての人間的な交流を楽しむという面が大きくなっている。

BCL ラジオ

BCL ラジオとはラジオ放送(特に短波による国際放送)を聴取して楽しむ趣味を BCL(Broadcasting Listening / Listener)と呼び、そのために使用する高性能なラジオを総称したものである。

国外放送局や遠距離局を受信するためには、一般のラジオ受信機とは異なる性能を有する高性能受信機(=BCL ラジオ)が必要である。たとえば受信周波数が広範囲であることや、受信感度が高いもの、隣接周波数の信号を分離する選択度が鋭いもの、外部アンテナ端子を有するもの、受信周波数が読み取れるものなどである。受信用ラジオや録音機などを据え付けた受信部屋をアマチュア無線愛好家にならい「シャック」と呼ぶ。1970 年代の BCL ブー

ム期には多くの家庭用電機メーカーから BCL 用に工夫を凝らした高性能ラジオが発売され、ブームの中心だった小学生高学年から高校生にかけての学生達は、毎夜ラジオにかじりついた。その後、ブームの下火とともに BCL ラジオを販売する家電メーカーは少なくなり、2000 年を過ぎると高性能ラジオの発売を続ける日本の電器メーカーはソニーと松下(パナソニック)の 2 社だけになった。2006 年現在、日本国内では松下(パナソニック)社は高性能ラジオを製造していない(2008 年にラジオ単体製品自体を製造販売しているのがソニー社とパナソニック社だけになっている)。

BCL ラジオの収集(コレクション)については、BCL 本来の目的とは異なる。しかし BCL を趣味とする者は少なからず所有するラジオに対して相応の愛情を持っており、「受信を楽しむ」から「受信機自体を楽しむ」へと発展して、数台のラジオを所有=収集することがかなりある。2008 年に日本で再び BCL ブームが起きている背景には、インターネットオークションによる BCL ラジオの流通が盛んに行われていることが一因として挙げられる。中古ではあるが 1970 年代当時の高性能で多機能なラジオが入手でき、当時はカタログや店頭で憧れるだけで購入することが出来なかったラジオを、大人になった時点で改めて入手して BCL を再開するという人が多い。

日本のインターネットオークションでは、程度の良い BCL ラジオは発売当時とほぼ同じ価格、もしくはそれ以上の高値で取引されている。ソニーのスカイセンサーや、ナショナル(パナソニック)のクーガ等は販売出荷数も多いためオークションの出品数も多く、価格もそれ程高くないが、希少性のあるラジオは相当の高値でコレクターに取引されている。

日本においてソニー以外の BCL ラジオが入手困難になった近年では、中国製の廉価な短波ラジオが家電量販店やディスカウントストアなどで販売されている。

僕には BCL の師匠がいた。

伊藤 晃

高校生最後の冬、集合場所である都内 Y 駅へ向かう。が、集合時間には間に合わず、それらしき人たちはいない。秋葉原の某 BCL 専門店で入手した某 BCL サークルの会報に掲載されていた会場への道しるべを頼りに向かう。その建物の入り口の看板には「〇〇サークル・ミーティング」の文字が。会場に入ろうか入るまいか悩んだ。せっかくここまで来たのなら…。

そろっと扉を開けると、一斉にこちらを見る。10 人以上の視線が怖かった記憶がある。自己紹介 & 近況報告をしている最中だったらしい。空いている席に座り、各メンバーの自己紹介 & 近況報告を聞く。それぞれに近況報告に対して、ミーティング進行役の方が独特のテンポでその返事を返す。これが結構心地いいテンポである。

そんな中、進行役の方が僕に振る。緊張しながらも、自分の使っているリグ(当時 SONY ICF-2001D)と聞いているターゲット(オセアニア地区の英語放送)を喋った。進行役の方が先ほど同様のテンポで歓迎の言葉をくれた。この時、なぜか嬉しさを感じたのは 25 年以上経った今でも鮮明に覚えている。

ミーティングで交わされる情報交換はと

ても高度でついていけない自分がいた。気をつけてくれた進行役の方が、何度か声をかけてくれたのを覚えている。その進行役の方の気遣いがよかったのがキッカケで、その場でサークルの会費を払った。その後すぐに進行役が会報の編集長・関山さんだというのがわかった。これが初めての某 BCL サークルミーティングの参加だった。

会報を見ると定番の DX レポートや QSL 到着レポートなどに加え、読み物が充実していた。その読み物のなかには関山さん名義で書かれたものも多く、それがツボにはまったのである。DX メインの堅物 OM さんにはない、ものすごく柔らかい文章が心に惹かれる。なかには凄くきつめな書き方をしているも必ずオチがあり、納得させられるものがあった。また会員を飽きさせないように様々な企画もあった。これが他の人にはマネのできない編集なのだ。

それは某大手パソ通ネットの BCL-SIG の書き込みでも同じだった。その BCL-SIG のシグオペという立場もありながら、自由奔放に自分の世界を出している。なのにこのシグオペを嫌う人はいない。SIG 内はいつも盛り上がっている。唐突に海外のアンテナやリグにハマったかと思えば、国内中波にハマったり、ときにはアマチュア無線を運用してみたりとその人の人生は楽しそうに見えた。この人はいったい何者なんだろう、と疑問を持った。

私が 20 歳を過ぎ、ミーティングの 2 次会やその他のオフ会で関山さんとお酒を飲み交わす機会が増えた。当然のことながら、関山さんと飲む酒はおいしかった。なんせ酒のつまみはいつも BCL やラジオの話。また関山さんの自宅をお邪魔してほろ酔い気分でアマチュア無線運用したり、近くの公園で移動運用したり。ほろ酔い気味の関山さんの口はこれまた凄い。ここでは書けないけど(笑)。

そんな関山さんに海外中波 DX のことについて教わりデビューを果たしたり、BCL のミニコミ誌を作るときにもいろいろ教わったり、またお酒のおいしい飲み方などを盗ませてもらった。今の私の BCL ライフにかなりの影響を与えてくれた。これらを今考えると、私の『師匠』だったのである。

唐突に関山さんが私の目の前から消えた。何年経ったことだろう、突然関山さんから電話があった。「今年ハムフェアに行こうと思うんだけど」と。今年のハムフェアで約 20 年ぶりに関山さんと再会。見た目は(いい意味で)変わってしまったけど、あの口調は変わらない。それを 20 年ぶりに味わえて凄くうれしかった。いろいろ積もりに積もった話をしていると、やっぱり関山さんは私の『師匠』であることを確認した。

そんな師匠が今、(また)BCL 界をかき回そうとしている。またあなたについていきます。思い切り楽しみましょう。

関山さんにお会いして。

長谷川 眞也

8 月に TDXC (戸塚 DXers サークル)の会誌「PROPAGATION Edition 2」を発行後、大勢の読者の方々から反響や感想を頂戴しました。その中で、私のフェイスブックに「読ませていただきました。いいね！」とメッセージを下されたのが、'80~90 年代に KDXC (関東 DXers サークル)の編集長だった関山礼一郎さん。KDXC 会誌「CALL SIGN」のバックナンバーでお名前だけは存じておりましたが、突然のメッセージに驚いて調べてみると、つい最近 BCL を復活して Twitter やブログをはじめたご様子。TDXC の活動に

共感いただいているとのことと恐縮するとともに、1994 年に編集長を突然去った経緯や、電撃的な復活に大変興味を抱いていたところ、元 KDXC 代表だった竹野さんより「関山君が TDXC にとても興味を持ってましたので、ぜひ飲み会に来たら、と誘っておきました」と連絡がありました。

2 年前に 3 人ではじめた TDXC は少しずつ参加者を増やしつつあり、そしてまた「時代を越えた」新しい輪が広がることにおおいに期待して、「関山さんを囲む会」を戸塚で開催しました。TDXC からは 6 名、はじめてお会いする近郊在住の BCL が 1 名、山形から竹野さん、そして群馬から関山さんと合計 9 名が集まり、居酒屋の個室が熱気に包まれるほどの

盛り上がりを見せました。

関山さんの印象は、かつての会誌や Twitter の語り口と同様に自由でフランクなイメージでしたが、「BCL を通じて誰かと繋がりたい」という情熱がふつふつと湧き出ている、BCL にアクティブだった時期にズレはあるものの、理念や心情は非常に近いものがあると確認できましたし、また世代やジャンルを越えて仲間同士が繋がりをあえる楽しさを実感しました。

BCL は衰退著しい趣味ですが、ローカル同士でネットワークを組んで活性化できる、という可能性をさらに感じました。関山さん、今後ともよろしく願いいたします。

アンケートにご協力を。

現代の BCL の楽しみ方を調べています。差し支えない範囲で結構ですので、以下のアンケートにお答えくだされば幸いです。お名前は匿名で結構です。よろしくお願いします。

あて先: E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp

1. あなたの年齢、性別をおしえてください。
() 歳代、(男・女)。
 2. あなたの BCL 歴をおしえてください。
() 年。
休止期間がある方は、その年数もおしえてください。
() 年。
 3. あなたが現在使われているラジオ、受信機の型式をおしえてください。
()
 4. あなたが現在使われているアンテナの形式をおしえてください。
()
 5. あなたがラジオをよく聴かれる場所をおしえてください。
自宅()%、屋外()%。
 6. あなたの現在の BCL の楽しみ方を簡単におしえてください。
例: 海外中波 DX、E スポ受信、アンテナ製作、ベリカード収集、など。
()
 7. その他にご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。
()
- 以上、ありがとうございました。 (編集人)

編集人より。

BCL 大好きマガジン「BCL は趣味の王様」のデモンストレーション版ができました。ご覧になっていかがでしたか。表紙にも大きく書きましたが、来年 8 月の創刊号に向けてライターさんを大募集しています。なぜ来年 8 月かと言うと、ハムフェアでお披露目するためです。ブースを借りて出展する予定です。もうね、20 数年前と同じノリです。そう、歳はそれなりにとりましたが、情熱はあの頃と変わりません。いや、むしろ増しているのかも知れません。これで老後の楽しみができました。…それはさておき、ライターさんを大募集しています。

「自分はこんなふう to BCL を楽しんでいる」
「昔はこんな楽しみ方をしていた」
「これからまた BCL を始めてみたい」

あなたの BCL への思いや情熱を広く世の中に発信してみませんか。今や、インターネットで情報交換も交流も手軽に行える時代ではありますが、紙の上でのコミュニケーションも楽しいものです。表紙に書いた通り、原稿料は出ませんが、飲み会への永久参加権をプレゼントします。このデモ版をお読みになって興味を持たれた方は、ぜひご連絡ください。一緒に作りましょう。

あて先: E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp

BCL 大好きマガジン「BCL は趣味の王様」 デモンストレーション版

発行日: 2014 年 11 月 15 日

編集人: 関山礼一郎

発行所: BCL の王子さま社

連絡先:

E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp

Web: http://blogs.yahoo.co.jp/bcl_prince

(c) BCL の王子さま社

(無料配布)

2014年11月12日現在
表内の数字は周波数 = kHz

局名／JST	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	0	
KBS World Radio ■KBSラジオ国際放送	150-790 大韓民国Seoul特別市永登浦区汝矣島洞 18番地 KBS国際放送 日本語班					9580	11810						6155 7275	6095		1170					
Voice of Korea ■朝鮮の声		621 3250 7580 9650	621 3250 7580 9650		朝鮮民主主義人民共和国 平壤市 朝鮮中央放送委員会 日本語部							621 3250 (6070) 7580 9650	621 3250 (6070) 7580 9650	621 3250 6070 7580 9650	621 3250 6070 7580 9650	621 3250 6070 7580 9650	621 3250 6070 7580 9650				
China Radio International ■北京放送・ 中国国際放送局			5985 7440	9435 9695	100040 中国 北京市石景山区石景山路甲16号 中国国際放送局 日本語部										7325 9440	1044 7260 7325	1044 7260 7325	1044 7215 7325	1044 7395 7410	1044 5980 7220	
Radio Taiwan International ■台湾国際放送			11605		中 華 民 国 台 湾 台 北 市 北 安 路 55 号 中央廣播電台 日本語課							11605				9735		9735			
Voice of Mongolia ■モンゴルの声					Japanese Section, Voice of Mongolia, C.P.O. Box 365, Ulaanbaatar 211213, PEOPLE'S REPUBLIC OF MONGOLIA								12085						12015		
Radio The Voice of Vietnam ■ベトナムの声放送局		9840 12019			Radio The Voice of Vietnam, Japanese Section, 45 Ba trieu street, Ha noi, VIET NAM										9840 12019			9840 12019		9840 12019	
Radio Thailand World Service ■ラジオ・タイランド					Japanese Section, Radio Thailand World Service, 236 Vibhavadi Rangsit Road, Bangkok 10400 THAILAND												9390				
Voice of Indonesia ■インドネシアの声		9526	●開始後間もなくして 放送を終了するのが通 例		Japanese Section, Voice of Indonesia, Jl. Merdeka Barat, 4-5, 4th Floor, Jakarta 10110, INDONESIA												9526	●停波や放送時間のズレは珍しい ことではない			
Islamic Republic fo Iran Broadcasting ■IRIBラジオ日本語		5965 7365			●独自のQSLポリシーがある Islamic Republic of Iran Broadcasting _ Japanese Section, P.O.Box 19395-6767, Tehran, IRAN													9585 11600			
Radiodifusión Argentina al Exterior ■RAE(ラエ)				●20時とは別番組		11710 火～土	Radiodifusión Argentina al Exterior, Japanese Section, Po BOX555 - CP 1000 - Buenos Aires, ARGENTINA									15345v 月～金					
Radio Sputnik ■ラジオ・スプートニク				Radio Sputnik (Japanese Section), 115326, st.Pyatnitsukaya 25, Moscow, RUSSIA									●tunein及び http://japanese.ruvr.ru/play/ では 24時間聴取できる		Live Streaming		●10月26日以降、前 日の番組が出ている				
Reach Beyond Australia ■HCJB オーストラリア		17760 土・日のみ		●返信用に82円切手2枚を同封する 〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8 淀橋教会内 HCJB 係												15400 土・日のみ					
WRMI ■ファミリーラジオ				Family Radio, 290 Hegenberger Rd., Oakland, CA, 94621 USA もしくは WRMI Radio Miami International, 75 Fontainebleau Blvd., Suite 1N4, Miami, Florida, 33172 USA										7570 試験放送							
KTWR ■KTWR フレンドシップラジオ				●フレンドシップラジオ KTWR係へのEメールにPDF化した英文 のレポートを添付する。件名は「KTWR係」のこと ktwr@friendshipradio.net												9975 日のみ		●2015年4月26日まで			
T8WH - World Harvest Radio ■主の再臨に備えて				Preparing for Jesus' Second Coming, P.O. Box 821791, Vicksburg, MS 39182, USA							9930 土のみ	●過去の番組の再放送の模様									
Bible Voice Broadcasting ■希望の灯				●以下でQSLが得られるかは未調査 〒270-1199 我孫子郵便局 私書箱7号 我孫子バプテスト教会											21480 日のみ						
HLAZ ■日本FEBC				●日本FEBCではQSLを発行しない。 以下はお便りの宛先 〒180-8691 武蔵野支店 郵便私書箱36号													1566				